

今年度から、「はまゆうの窓」と題して、児童生徒や学校のことはもちろん、地域のことや様々なことを定期的に情報発信していきます。本校のホームページには、他にも進路関係や教育支援のことなどについてもお知らせしています。ぜひ、ご覧ください。

## 「はまゆう」って!?

本校はどんな由来で「はまゆう支援学校」という校名になったのでしょうか。これについては、また大先輩の先生方に教えていただくことにします。

さて、今年4月に、事務室玄関前の庭に「はまゆう」の花の株や芽などを植えていただきました。植えてくださったのは、本校元校務員で近くに住んでいる松場さんと今の校務員の方です。それが左下の写真です。さあ、これから学校の玄関あたりに、「はまゆう」の花がたくさん咲いてくれることを楽しみにしています。もうひとつ、「はまゆう」の花言葉には、いろいろな意味があるようですが、前校長の川口先生が、「あきらめない気持ち」という意味もあることを教えてくださいました。



校長室前のはまゆう

4月の始業式でも、「怪我をした横綱の稀勢の里があきらめずに最後まで力を出したので、優勝できた。」という話題を取り上げました。児童生徒の皆からも「知っている。」という声が聞こえました。そして、はまゆう支援学校の名前のように、あきらめずに続けることが大切ですよという話に頷いていました。

### 豆知識

ハマユウはヒガンバナ科の常緑多年草で、高さ50～100cm程度。開花期は6月～8月です。ハマユウの花は夕方から咲き始め、深夜に満開になります。その頃に香りが一番強くなり、次の日の朝にはしおれてしまいます。

本校が所在する上富田町（かみとんだちょう）では、「フラワータウンかみとんだ」という事業を実施しています。町内の小中学生、町民ボランティアの方々、行政など、地域の様々な人が関わり、花の苗を植えて栽培することを通して、町を美しくしたり、異世代間の交流や奉仕活動の大切さを理解したり参加したりなど意義のある活動として続いています。本校でも、花の苗や土などを提供していただき、教育活動の一環として取り組んできました。やはり、四季折々の花をめぐることは「ゆたかな心」を養うものです。通ってくる子どもも職員も、そして来校される保護者や通りかかる地域の方々にも楽しんでもらえるよう、学校の玄関周辺を花いっぱいになればと思っています。

もうひとつ、発見がありました。「ハナミズキ」の花がきれいに咲いています。「ハナミズキ」と聞いて、歌手で作詞家である一青 窈（ひとと・よう）さんの歌を思いおこす方も結構いると思います。ハナミズキはアメリカ原産で、日本が1912年にワシントン D.C.へサクラを贈り、その返礼として1915年に贈られ、植栽が始まったそうです。校内には、他にも樹木があります。寄宿舍生が調べ学習をしてくれるので、楽しみにしています。

## 花いっぱい運動

# 継続は力なり ~あいさつ運動~

本校では、生徒会・児童会を中心に「あいさつ運動」を続けています。平成25年度から取り組み、4年目になります。スクールバスで登校してくる児童生徒に玄関前で、生徒会・児童会役員が一人一人に「おはよう」と言葉かけしたり、ハイタッチしたりとコミュニケーションのきっかけを作っています。小学部低学年の小さな後輩には、高等部の先輩が腰をかがめて目線を合わせてあいさつしています。

また、廊下の右側通行も続けています。廊下や階段でぶつかるのを防ぐという安全面と社会での交通ルールの理解が目標です。

この2つは、あたりまえのことなのですが、定着させるのは難しいことです。しかし、4月からの様子を見ていると、廊下で出会った時に「おはようございます」「こんにちは」とあいさつをすると、あいさつが返ってきます。廊下の真ん中に貼っているテープを手がかりに右側通行をしています。

さらに驚いたのは、給食を食べた後の食器類の返却の様子です。返却口が狭いので、以前は大混雑していましたが、今は一列に並んで順番を待っています。横から割り込んでしまう児童は、友だちや先輩から注意を受けています。

「はまゆう」の花言葉ではないですが、途中でやめずに継続して取り組んできた大きな成果だと思います。あいさつも廊下の右側通行も、他者を思いやる心につながります。さりげない心遣いがあると、みんなが気持ちよくなります。そして、まず身近な大人である私たちが率先して、このような姿を見せ続けていきたいものです。

- ①あかるく
- ②いつも
- ③さきに
- ④つたえよう

あいさつ運動  
合言葉

## 現職教育から

4月21日（金）に研修部企画の現職教育がありました。「授業改善」に向けて、これまでの取組の経緯と今年度の授業改善の進め方についての内容です。

本校では、平成20年度から「授業改善・分かって動ける授業作り」を研修テーマに取り組んでいます。（※詳細は、HPの目次の研修をご覧ください。）全校研修としての位置づけですが、職員数も多く、小学部・中学部・高等部で各学部研修として年間を通じての研修となります。そのため、年度初めに研修の方向性を共通確認する必要があります。各学部の授業改善の取組状況を交流する機会は、年に2回外部講師を招聘する授業研究と年度末の成果報告会を設定しています。

これだけでなく、日々の授業改善も課題です。授業改善のゴールは、児童生徒の変容です。その変容がわずかだとしても、児童生徒にとっては大きなことで、その変容を見逃さず評価し賞賛できる資質が教職員には必要だと考えています。一方で、学校全体が変わりつつあるという大きな変容もあります。そのような変容に繋がっているのが、※1「学校全体で取り組むポジティブな行動支援」(School-wide Positive Behavior Support: **SWPBS**)という考え方です。このSWPBSは、本校の「授業改善・分かって動ける授業作り」の基礎となる考え方と一致しています。

現在は、主に生徒指導部が生徒会活動の中で、全校朝会や始業式・終業式の進行、校歌など手話のミニレクチャーなど実践しています。



※1引用資料：H29 発行徳島県総合教育センターパンフレット  
<SWPBSは2000年頃からアメリカから始まり、日本でも小学校などで実践が拡がりつつあるようです。>